

仲津留隆 (厚生労働省)  
關 雅夫 (厚生労働省)  
西郷 浩 (早稲田大学)  
樋田 勉 (群馬大学)

「2次元コーホート生命表関数による人口動態の解明」……………廣嶋清志 (島根大学)

などがあった。また、昨年度に引き続いて設けられた統計制度改革のセッションを含め、官庁統計に関係するセッションが多数設けられて様々な報告が行われたことも、今次大会の一つの特色であったといえるであろう。(石井 太記)

## 日本人口学会2006年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会の2006年度第1回東日本地域部会が2006年9月16日、札幌市立大学看護学部桑園キャンパス(北海道札幌市)にて開催された。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

1. 「戦前の沖縄県の死亡力と出生力は低水準だったのか?—1920~35年の分析を中心に—」  
……………山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「新規学卒者と退職年齢層の人口比」……………清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 「平成17年国勢調査要計表との比較による『日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月推計)』の中間評価—北海道を中心として—」…小池司郎 (国立社会保障・人口問題研究所)  
西岡八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)  
山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
4. 「札幌市の少子化—その特徴と要因」……………原 俊彦 (札幌市立大学)

1は、人口動態統計を利用して1920~35年の沖縄県の死亡数と出生数を推計し、当時の死亡力と出生力を評価したものである。2は、戦後における労働市場への参入者と退出者の人口比を地理的な視点で整理し、人口移動に与える影響について考察したものである。3は、2005年に実施された国勢調査の要計表を利用して、社人研が実施した『都道府県別将来推計人口(平成14年3月推計)』と『日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月推計)』の精度について検討したものである。4は、全国的にみて少子化の進んでいる札幌市について、人口学的要因と社会経済的要因に大別して検討したもので、札幌市の少子化対策への提言もなされた。

地域部会の特性を活かした丁寧なプレゼンテーションがなされ、参加者は少数であったが、活発な議論が交わされた。(山内昌和記)

## 第79回日本社会学会大会

第79回日本社会学会大会は京都市の立命館大学において、10月28日~29日の両日にわたって開催された。一般研究報告とテーマセッション合わせて56部会の他、ポスターセッションや国際交流委員会ラウンドテーブルなどもプログラムに上がった。本研究所の職員からは、以下の一般研究報告があっ